

講演会

「ふんなが主役のまちづくり」

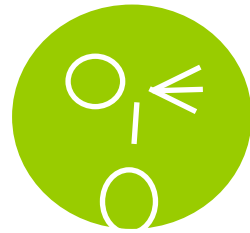


講師

広島県安芸高田市
川根振興協議会

つじこま けんじ

会長 辻駒 健二 氏



平成20年 8月30日(土) 14:00~

日の出ふれあい会館



<プロフィール>

高校卒業後、トラック運転手を経て20年余り前にUターン。
生活相談員（非常勤職員）を務めた後、1992年から川根振興協議会会長。63歳。

「川根地区のまちづくりは、目の前にある課題にみんなで向かってきた歴史の積み重ね。
イベントを実施する場合は必ず実行委員会を作り、複数で準備し運営する。

人が多い方が成果が出やすく、達成した時の喜びも共有できる。

やらされている立場では感動も残らず、次に頑張ろうという気力もわいてこない。

住民自治というのは、地域の1人1人が地域に誇りを持ち、リーダーの気概を持って事に
当たることに尽きる。」と辻駒氏は語る。

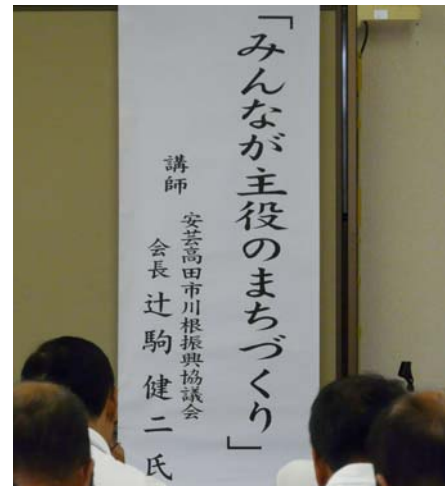
主催：玉野市コミュニティ協議会・玉野市市民活動支援課 (TEL:0863-32-5567)

● 司会

定刻が参りましたので、只今から玉野市コミュニティ協議会リーダー研修会を開催いたします。

私は、本日司会進行を務めさせていただきます、玉野市コミュニティ協議会事務局の市民活動支援課の五老海でございます。よろしくお願いいたします。

それでは開会に当たりまして、玉野市コミュニティ協議会会長、濱口から挨拶をさせていただきます。



● 濱口会長

みなさんこんにちは。

只今紹介いただきました玉野市コミュニティ協議会の濱口です。本日はご多忙中のところ、リーダー研修会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

また、市議会の先生方、協働のまちづくり条例策定委員会の委員の皆様、それから各種団体のリーダーの皆様、ご来賓としてのご参加に厚くお礼申し上げます。

今日をご案内のとおり広島県安芸高田市の辻駒さんの講演をお願いしております。私は辻駒さんのお話を平成13年と昨年、2回聞くチャンスを得させていただきました。昨年の県の研究会で玉野市コミュニティの関係者8名とお話を聞いたんですが、帰りのバスの中で話をしたら、我々だけでなしに、玉野の人たちにも聞いてもらいたいなあというような感想を述べ合った次第でございます。



そんなことから今年のリーダー研修会には辻駒さんをお呼びしようと。ただ大変お忙しい方なので、「受けてくれるかなあ、どうかなあ」という懸念はあったんですが、快く受けていただいて、今日の研修となりました。

今「**協働**」というのがキーワードになっておるんですが、辻駒さんは協働という言葉が始まる20年ぐらい前から地域の活動、協働そのものですね、そういう活動をされておられます。また実績を残しておられます。そういうことで、今日は約1時間と短い時間なんですが、有意義なお話が聞けるものと、それをまた皆さんの地域活動の明日への糧にさせていただきいなあと、そう思っております。

濱口 誠 会長

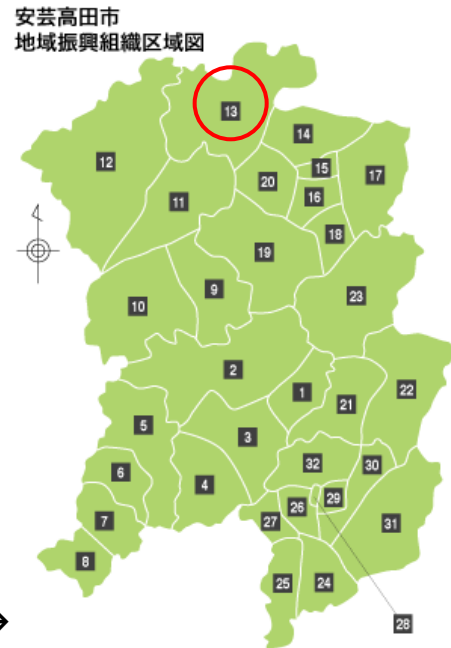
以上簡単ですが、ご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

● 司会

ありがとうございました。それではご講演いただく前に、講師の先生の紹介と、先生がご活躍されております広島県の川根地区の紹介を簡単にさせていただきます。資料をお渡ししていると思いますので、ご参考にしてください。



↑赤色の部分が安芸高田市です。



13番が川根地域です。→

まず川根地区の紹介です。**広島県安芸高田市の川根地区は、島根県境に接する約270世帯650人の旧村の集落**です。1956年に高宮町へ、2004年に安芸高田市へと市町村合併が行われてきました。最初の合併後に役場や学校が消えていき、さらには過疎化・高齢化が進んでいきました。

大きな転機となりましたのは1972年7月です。集落が豪雨により壊滅的な被害を受けた川根地区は、自分たちで災害復旧活動を行いました。このことがきっかけとなり、住民の総意と総力を結集して活動する組織に発展しました。1977年以後は、地区全戸が加入し、積極的な地域づくりを進められておられます。地区での代表的な活動も資料に掲載してありますので、ご覧ください。

次に講師の先生のご紹介をさせていただきます。ご講演いただきます辻駒健二さんは、安芸高田市川根振興協議会会長を長年務められています。「**一日一円募金**」や**住民が出資する店舗経営**など、全国的にも珍しい事業を地区の先頭に立ち行っておられ、本日はまちづくりに重要なさまざまなノウハウを御教示いただけたと思います。それでは講演に入らせていただきたいと思います。

辻駒先生、よろしく願いいたします。

● 辻駒先生

紹介いただきました辻駒でございます。時間ギリギリに到着したので、皆様方には本当に待っていただいたと思います。14時からということで早く来させていただけばよかったのですが、10時まで草を刈っていて遅れてしまいました。ちゃんと携帯のアラームをかけていたのですが草刈機の音が大きくて、なかなか気付かず「やばい、遅刻だ！」と気付いてから慌てて帰って、シャワーを浴びてから、車に飛び乗りました。



辻駒 健二 先生

まずはこちらの会場の電話番号をナビに入れて、縦貫道から岡山道を通り、急いで走りました。警察に捕まることもなかったから、恐らくスピード違反ではなかったと思います（笑）。早島で職員の山田さんに待っていて、そこから合流して来ました。

玉野は良いところですね。私は呼ばれたときには山の奥だろうと想像していました。しかし着いてみると海があって、本当に立派な自然や施設がたくさんあるなど、驚きました。

そういうことで、今着いたばかりで玉野を見させてもらって何を話せばいいのかなと考えています。この地域に私の地域の活動そのものが当てはまらないのではないかと感じています。

地域づくりについて私は「立派な館の中に住んでいても、そこに住んでいる人間が喧嘩して生きていたのでは、どうしようもない。」と思います。各々が**「ここでどう生きるか」ということを真剣に考えなければいけない時代になってきている**、私はそのように思っています。

ところで話は変わりますが、私は1944年、昭和ですと19年生まれです。今年の8月21日で64歳になりましたので、もう6年すると70歳になります。そうして80歳になり、90歳になっていきます（笑）

私がこのような「地域づくり」に関心をもったのは、自分の親を見るために田舎に帰ったことが一つのきっかけです。

私は広島で働いていたのですが、おふくろが53歳で亡くなりました。亡くなる前に、病院のベッドで寝ているおふくろを起こしたときに「おまえは長男だから、家へ帰るか。」と、こういうことを約束したのです。それから10日余りでおふくろは亡くなりました。

自分が長男ということで、また小さいときから親の言うことには、逆らわずにしてきたという経緯もあって、そういう約束をしたのです。

そもそも私は「田舎におってもつまらん。」と、生活の場というものを求めて田舎から都会に出て行きました。田舎に働く場があればこのようなこともなかったのですが。

政府の「米を作れ。」という政策から、「米を作るな。」という政策への変更があるなど、田舎の活気がなくなる中で、私は自分の生活の場というものを都会に求めました。都会に出たらそれはもう「働かなければならない。」ということで、人の3倍は働きました。

「3倍」と言えば、1日24時間ですから結構働いたことになります（笑）。「錢儲けをして生きてやろう。」という、こういう感覚で自分は生活していたわけです。

都会は田舎の生活と違って、見るもの触るものじゃありませんが、「本当便利な世の中だな。」と感じながら生活しておりました。

しかし、家賃を払いながら生活するというのも初めての経験でありました。そういう生活をしていた中で、田舎へ帰ってくることになったわけですが、「なんでわしが田舎に帰らにゃいけんか。」ということも思ったわけですが「長男だから。」、ということで田舎へ帰りました。

嫁さんにもその話をしました。「なんで、私たちの生活を壊してまで田舎に帰らにゃいけんか。」と言われましたよ。ちょっと大袈裟かもしれませんが、自分たちの生活を「壊す」と言うたのかな、「めぐ」言うたのかな。「田舎には、結婚して子どもも生まれ、そして再三に帰りよるでしょ。」とね。

盆とか正月に田舎に帰ったときには、良いようにしていただいて、食べきれない分は車のトランクに入れて「これも持ってけ、あれも持ってけ。」と泥のついた野菜も貰ってたわけですが、ありがたいことはなかったですよ。「あんなもの持って帰って、誰が貰うてくれようか。」と嫁に言われて。私もおふくろの気遣いというものを親切に受け取らなかったですよ。「まあ持って帰れば何とかなるだろう。」というくらいに思って貰っていました。

しかしおふくろが亡くなって、その思いというものに、つくづく感謝しましたよ。同時に「孝行というのは、生きとるときにしないといけんな。」と。死んでから仏さんの前に座って、おふくろに話しかけても返ってくるものはないですよ。

しかし最近「よくがんばるとるなあ。」という、こういう声が聞こえるようになりました。



生い立ちを語る辻駒先生



私の親父も80歳の山を越えなかったわけです。親父が年をとって行く中で、手を添えてやらなければならない。嫁さんと親父は仲が悪かったが、親父の方も年をとっていくと人間も変わっていきました。嫁さんには親父のことを本当によく見ていただきました。



私には兄弟が5人おりますが、兄弟の縁を切ったこともあります。そうというのも、親父はたまに饅頭を買って帰ってくる兄弟には、いろいろなことを言っておったようです。そんな中、2人いる妹が「いったい兄貴らはどのようにして親父を看てくれよんだらうか。」と、そういう思いをしていたみたいです。

私は別に兄弟たちに「お兄さんすまんなあ。」という声を掛けてもらおうとは思っていませんでしたが、せめて自分の嫁さんには「お姉さんすまんなあ。」という声を掛けてもらいたかった。しかし兄弟たちは帰ってきてても嫁にそのような一言もなく、変なような顔をして、気に入らん顔をする。このようなことがある中で「おまえら、たまに帰ってきて、親父の機嫌をとるのは結構なことじゃが、帰ってきたときには、わしの嫁さんにすまんなあという、こういうことを言わんのであれば帰ってくな。出入りすな。兄弟の縁を切る。」ということを行ったわけです。

そうすると兄弟たちは、そのことをすぐ親父に言うのです。すると親父は「何をたれるんなら。この家はわしが建てたんじゃけ。それならお前が出てけ。」ということを行うわけです。

田舎に帰ってからは、そのような喧嘩をしながら親父と生活していたわけです。確かにおふくろが死んでから、「おいおい」と言って生活していた人間が、「おいおい」という相手がいないようになって、寂しくなったのだと思いますよ。

今から5～6年前に、78歳のおじいさん・74歳のおばあさんのいる家に行かせていただいて、いろいろと話をさせてもらう機会がありました。帰るときに私がおじいさんに「あんた、おばあさんが死んだらどうすりゃ。」と聞いてみました。すると「そうになったら老人ホームで生活する。」と言われましたね。

その家には、7人子どもがいて、どの子どもも街に家を持っていて、「部屋も設けてあるから来て生活せえ。」ということを書いてくれるみたいです。しかし、今でも行って、たまには外へ出ようかと思って出ると迷子になる。迷子になったら、「なんで出て歩いたんか!」と言って子どもに怒られるそうです。そういうことで「辻駒さん、子どもに怒られてまで、気兼ねをしてまで、生活しようとは思わん。ほいだが、身の回りが出来んわしにとっては、つれそいが死んだら、生活できん。同じ気兼ねをするなら、老人ホームで生活せにゃあならんなあ。」と、おじいさんは言うわけです。

その同じ質問をおばあさんにしました。「おじいさんが死んだらどうすりゃ。」と。すると笑いながらではありましたが、「辻駒さん、せいせいしますわ(笑)」と、皆さんこう言われましたよ。(笑)

この方もせいせいされんようにしてください。「おいおい。」言いよったら、「せいせいしました。」ということになりますぞ。(笑)

そのおばあちゃんは「わしゃあ、おじいさんとは違うぞ。子どものところに行って、1週間ずつでも泊まり歩いてでも生活できる。しかし、なんぼおじいさんが死んだからといって、わしはそういう生活は出来ん。」と言われました。「わしにはまだやらにゃいけんことがある。」と言うのです。わしが「やらにゃいけんことがある言うて、何かいな。」と聞きました。「おじいさんが死んだら、また良い彼氏を見つけて生活するんか。」と言ったら、「何言よんね!」と、叩かれましたがな。

おばあさんは「この家を守らにゃいけん。仏さんの守、墓の守をせにゃいけん。そしてわずかな農地でも自分が守をせんといけん。」と、こういう話をされました。

私は「なるほどの。」と思いました。そういう話をする中で、おばあさんに「あんたは婿さんもろうたんか?」と聞いたら「何を言いやさいや。隣から来たんじゃ。」と言いました。昔はどうも、おじいさん同士が話し合って、「うちの娘を嫁にやる、嫁にくれ。」というようなことだったんだろうと思いますよ。

その話を聞かせていただいて「なるほど、男と女の生き方は違うんだなあ。」ということと、そしてまた、**誰だって生まれたところ、育ったところで、生涯現役で生活したいという。要は「ピンピンコロリンとそこで逝きたいという思いがあるなあ。」**と思いました。

そういう中で「自分は50歳まではこうしよう、あるいは60歳まではこういう生き方をしよう。」ということで、自分の人生の区切り、区切りというものを地域に当てはめていったわけなんです。

私の地域は現在260戸で600人ぐらいしかいません。昭和21年頃には410戸で2198人いました。60年少々で人口が3分の1以下になりました。高齢化率は50%を超えております。集落によっては70%、80%です。「地域の中で一番若い者出て来い。」と言ったら、76歳が一番若い(笑)。こういう地域もあります。

皆さん、「若い者が帰って来る。」という期待を持って私もまちづくりを進めてきましたが、**もう「若い者は帰って来ない」という頭の切替えをしなければならぬ**と思っております。



川根地域の風景

私のところは、年々人口が減っています。そうすると農地が荒廃してきます。また昔は能とって、いろんな祭りや文化的な行事がありましたが、それも衰退してきます。そうすると地域全体の元気がなくなってきます。そうすると、そこへ住んでいる誇りというものがなくなってきます。これが中山間の実態なのです。皆さんの地域はど

うですか？「まだまだそこまではいかんで。」と言うでしょうね。地域全体で見れば「まだまだ」という状況もあるかもしれませんが、自分の集落なり、自分の地域なりというのを細かく見たときには、「衰退してきている。」と感ずることもあるのではないのでしょうか。

私の地域には、現在小学校が1校だけあります。昔は中学校があつて、高等学校もありました。無論その時代には役場もありました。病院も内科が2軒もありました。そして旅館があり、商店がありました。外に出て生活しなくても、自分の地域でしっかり生活ができる環境が整っていました。

昭和38年に、昭和の合併が行われました。そのときに「役場が遠くなるから困る。」というような話をしました。困るというのは、その時代には地域に車がある・電話がある家というのは限られていたので、公共交通機関で役場に行くことは大変だったからです。**役場が遠くなるということは、便利が悪くなるということでした。**

しかし今「役場が遠くなるから困る。」というのは「我々の地域の元気がなくなる。役場が何もしてくれんようになる」という意味のことです。ここが違うわけです。

私のところも紹介がありましたように、6町が合併して安芸高田になりました。合併当初は人口3万4千人を超えていたのですが、わずか4年で人口はもう1500人ぐらい少なくなっております。これはもう自然減、社会減で、こういう状況にあるわけです。

高宮町も昭和の合併のときは、人口1万人を超えていましたが、今は4400人ぐらいしかおりません。地域全体の高齢化率も、もう45%を超えているという地域なんです。



川根地域を走る電車

川根は昭和の合併をしたときでも高宮の端っこです。安芸高田市になっても端っこです。ひとつ山を越えると島根県です。こういう地理的条件のところで、わずか農地は地域の全部集めても、昔から100ヘクタールしかなかったわけですが、その農地そのものも、今は80ヘクタールぐらいしかありません。したがって専業の農家の方はいません。その農地そのものも今、これを管理することができないという状況にあります。

私も振興会の会長をさせて頂いて16年くらいになります。まだあと4年はやらなければと思っています。これが、「バトンを渡さなければ」という状況になるかというのは、4年先のことを考えながら、課題というものをどうするか、という議論をせんといけんと思うのです。

今日皆さん方のところに来て、話をさせて頂いていますが、私は大学の先生でもなければ、これらのことを喋って儲けている評論家ではありません。

川根振興協議会というのは、地域の皆さん方が会費を出しています。川根地域に生まれた人間、住んでいる人間はすべて会員、川根振興協議会というのはこういう組織なのです。旧川根村、これが一つの集まりで、1972年、昭和47年に振興協議会を立ち上げた。

立ち上げた理由というのうは、「江の川」という川が流れておって、これは日本で10番目くらいの長さかな？昭和47年の時に大雨で増水して、人の命こそ奪われませんでした。生命・財産奪う川です。その年に川根振興協議会というのを立ち上げたのです。**地域の皆さん方が危機意識を持って「自分たちでなんとかせにゃーいけんあ」と思ったわけです。**このようなことを江の川の流域の町村の中でしたのは私のところだけです！すごい先輩がおったのではないかと思います。地域の皆さん方が「おい、こりゃなんとかせにゃーいけんでえ。役場に頼っとたら自分たちの地域が地図の上からなくなるで。」という、こういう危機意識を持ったのです。

そして1戸当たり年会費500円の会費を出して、地域のみんがが会員になって、災害復旧に向けての取り組みをしたのです。**行政頼みじゃなく、流れた田畑を自分たち**



江の川

で手を貸し、浸かった家も作業班をつくって消毒して歩いた、ということも記憶に残っております。まさに今皆さん方が取り組んでおられる「協働」、こういうようなことを行政と一緒にやってやったのです。

「せにゃーならん、させにゃーならん。」という時代というのは、その辺からきているのですよ。昭和47年災害の時には、地域の皆さん方が自分たちの地域を「なんとかせにゃーならん。」という気持ちでがんばっていたのです。それから段々と「せにゃーならん、させにゃーならん。」という風潮になってきたわけです。行政は「せにゃーならん。」です、我々の側からいうと「させにゃーならん。」です。

農業一つとってもそうです。今日でも私が草を刈っていた場所というのは、自分の地所じゃないのですよ。「9月から学校が始まるから、通学路の草を刈っちゃろー。」と思って、今朝5時から起きて草を刈っていたのです。

それといいますのも、昔は行政が年に3回程草を刈ってくれていたのですが、銭がないということで、今は年に1回です。年に1回だけ刈って草が生えないのだったら、それでいいですが、そんなわけないのです。年1回いうのも、市と我々と話をして決めたわけではありません。「銭がないから出来ません。」ということで市が決めて、そういう状況をつくっているのです。

この問題については平成20年9月1日の夜7時30分に市長を呼んで自治懇談会をやります。「どうなっとんな、確かに財政的に厳しくなれば、1回しか刈れんかもわからん。**なら何で我々と今後のことについて話をして、互いに理解をする中で、よっしゃ、ということにせんのか。**」ということ伝えようと思っています。

高宮町には川根振興協議会という組織みたいなのが8つあります。私らのところが早く振興会をつくったら、「なんと川根は一生懸命やりよーるなあ、うちらもつくらにゃーいけんで。」ということで来原というところに来た。それで今度は合併のときに高宮の一番中心になるところは「あそこでもつくったんじゃから、わしらもつくらにゃーいけんで。」ということで、次々に6つの組織ができました。我々が我々のために組織をつくっていったのですから、行政指導型じゃないので規模もバラバラ、大きいのは600戸、小さいのは47戸です。

そこの会長さんたちと「市長と実際に話をしてみよーや、観光課長や部長も呼んで一緒にそういう問題を議論してみよう。」ということになったのです。行政の吊し上げではありません。**地域の状況という話しをする中で、「我々はここまで出来ますよ、これ**

から先はできませんよ。このところをどーするんなら。」と言って話をしようということを、この9月1日に計画しています。

最初は今朝のように草を1人で刈っているのですが、いつの間にか1人が2人になり、2人が3人になる。そうするうちに現在は5・6人になって草を刈っています。到底考えられん状況じゃないかと思うのですが、**我々の地域というのは自分たちが守っていかなければならないのですから、自分たちができないことは行政と協働していくことです。**

今までは自分たちの地域を一生懸命守って来ましたが、守ってばかりでは、なかなかいいことにはならないと思います。要は攻めていかなければならない。



そして「あれをせー、これをせー。」と要求して、ものが成就した、成就出来たということはそうはありません。要求しても「制度がありません、例がありません。」と言われ、それから先は議論できないのです。**だから「要求型」から「提案型」の地域づくりをしななければならないということを学んできたわけです。**

実践していけば必ずそこに問題が起きてくる。その問題を自分たちで議論していく訳なんです。一つの行事をすれば「誰がするんだ、誰が来るんならあ、雨が降ったらどうするんならあ、怪我でも起こしたら誰が責任とるんならあ。」と課題が出ます。しかし、それくらい皆で課題を挙げるということは大事なことです。だが、最後の責任の論まで出たら、それから先の議論は難しくなります。私の地域もそうでした。最後の責任論までいって、「よっっしゃー、わしが責任持っけー、やれ！」というような状況にはなかなかならない。

そもそも議論そのものが建設的なもので「なら、こうしょー、ああしょー、ああだ。」ということになれば、責任論まで出やしないのですよ。日ごろ行事に参加して一生懸命している人間はしょうもない議論はしません。そういうつまらない議論をするのは日ごろ何もしていない人間です。やっていない人間ほど、つまらない意見を出して会を行き詰ませよる。

私は川根振興協議会の会長4代目なんですよ。一番始めは「中立的な立場の者がいなければいけない。」ということで、お寺の住職がなったのです。その次には「おいおい、こりゃー大変で、こんな小さな地域を守っていくには、組織をつくって、地域の皆さん方に会費を出して頂いて、やらにゃーいけん。」と言った郵便局の局長です。3代目は学校の校長先生を退職された方でした。

その時代というのは議論をしても、議論という議論にはなってなかったんですよ。

「会長、誰が責任とるんなら。」というような議論までなっていない。「やれ」と言うたら「はい」と返事してやってた。極端な話が「右向けー。」と言ったら「はい。」、「左向けー。」言うたら「はい。」と言ってやってたんです。

そして自分が会長になるときに、途端に皆さんが「ありゃー、好きでやりよーるんだけー、あれの言うこと聞いてやりよーたら、会社クビになるくらいさせるでえ。」ということを出したのです。役員会にも、役員になる者も、なかなか了解してくれなかったですよ。

自分が人の上に立ってじゃないが「人の世話をしながら地域のことをやらにゃーいけん。」ということで、頑張ってきたわけなんです、なかなか良いような状況にならんかった。だが、2代目の郵便局の局長が何回も肩を叩いて「辻駒さん、挫けちゃーならんでえ、泣いちゃーならんでえ。」と応援してくれました。

地域の皆さん方が知らん顔すれば、私は「やれやれのお。」というようなこと思い、「わしじゃー、だめじゃなー。」と本当ジレンマに落ち「いつ、やめちゃろか。」というようなことも考えました。自分は先輩の郵便局長、あるいは寺の住職、学校の校長さんのように肩書きがない。**「なるほど」と地域の皆さん方を納得させて、付いてきてもらうには「自分自身が汗をかき、手に豆をつくらんといけん。」ということ先輩方に教わった訳です。評論家では地域のみんなは動かない、肩書きじゃあ動かない。「先頭に立つ者は汗をかかにゃーならん。」ということ。**

ある時こういうことがありました。一つのイベントをやるのに、地域の皆さん方に朝から出て頂きました。自分の頭の中にはやることのイメージはできていました。そして役員会で「こうしよう、ああしよう。」ということで皆さん方に理解頂いて、モノをつくっていく訳なのです。そして「よっしゃー。」ということで、みんな勇んで朝から取りかかって3時頃に終わったわけです。「会長さん済んだでえ。」ということで、行ってみると、「何ならこれはー。」というようなものができていました。自分が描いとったモノと実際にできたモノ、これに凄いいずれがあるわけです。「なんならこりゃー。」と言ってしまいました。「おい、もういっぺんやりかえー。」と、こういうことを言うと、地域の皆さん方が「よっしゃー。」と言うかといったら、そうじゃない。当然のように「自分が気に入らんけえーということで、やり替えーたー、何事なら！わしらあ、一生懸命やったんじゃ。」と、このような話になるわけです。それだけではなく、今度は何を言うかといったら、「おい、いのうで、わしらあ、銭貰ろうてやろうるんだったら、そりゃ、もうね、銭を返していなにゃー、いけん。だがボランティアでやりよーる、なんで怒られてまでやらないけんか。汗をかいた者を褒めてくれりゃーせん、自分が気に入らんけーやり替えだあ、なんて何事なら。」と言って、「やれ帰ろーでえ。」と言ったら、皆さん後ろを見ながらでも一緒に帰っていくわけです。私は「よっしゃっ、わかった。わしが一人でやるわあー。」と言って、まあ、

これも捨て台詞のような言い方になったかもしれませんが、「わし一人でやりますから。」ということでもあります。材料は皆さんが集めてくれている訳ですから、材料を壊さんよーにバラして、またやり直し始めました。そうすると帰った者が、やっぱり良心がある訳なんですよ。文句を言った人間も最後には来ました。そして皆で作って7時、8時になってやっと全部完成して、汗をかいた者が「なるほどのお。」と、こういう言葉を出しました。

その時に飲んだビールというのは、今でも忘れないくらいおいしかった。**やらされている立場でやれば、なかなか自分が感動ということは出来ないのですよ。**やらされる立場では「あれ、これ、できることをしとけえー。」と言われたということで、どうなっとろーが「関係ない、わしら言われたことをやったんだ。」と思いますね。

それから後に地域の皆さんが何を言ったかということ「今度は、全部つくってから会長呼びに行ったんじゃ、気に入らにゃー、また、やり替えさせるけえー、半分ぐらいつくった時に、呼び一行ってこい。」と。「そこで見て一てえー、どがなか言うことを指示すりゃー、また、次に出来る。」こういうことを言ったのです。そして今ではどういふことを言っているかということ、「どーですか、ええのができたろーがあ。」と。このように一つのものに関わることによって、自分たちが自信を持って関わっていると意識し始める、こういう組織になっていったということです。

まちづくりというのは「人づくり」です。人づくりということは「自分自身がどうかわるか」です。

道路改良もやりました。用地の交渉等は今までは全部、役場の職員がやってたんです。そして地元の議員さんです。でも、なかなか用地の調整がつかん。そうすると一番最後に出向いて行くのは誰だったかということ、町長が行くんです。「なんと、あつこの家にゃ、議員が行ってもえええことにならんかったから、町長が行ったけー、だいきり金を貰ろうたんだらう。」というように、地域の皆さん方はねじれ徳ですわ。

こういうことがあったということは、わしも確認しとらんが、地域の皆さん方の声というのはそれです。そしてまた、道路改良かなんか、計画が立っても、地域の皆さん方が、「うちの田んぼが少なくなる、隣より少なくなる。」「わしの代で先祖から受け継いだものを、なくしちやーならん。」と。まだ口の悪い人間は何を言よったかということ「土地を売ってまで食わにゃーいけん程、貧乏しちやーおらん。」ということで、協力せんのですよ。これじゃ皆さん、何にもできませんわあ。私が住民に何を言ったかということ、「同じように高宮町の町民として税金払って、何で税金が自分たちの地域に還って来んのか。」と言うんです。「道路改良一つとっても、毎年田んぼが浸かる河川改修にしても何でできんのか。」と言うんです。そうすると住民の皆さん方は「そりゃ町長がいけんのよお。」で、その次に今度やり玉に挙がるのは何かいうた

ら「地元の議員がいけん。」です。「これがボォーとしとるけん，なかなか，予算をよー獲らん。」と。「ホンマ，そーか？」言うたんですわなあ。

しかしこれらでも，**ちょっとしたきっかけ**ですよ。皆さん方の地域も，ホント素晴らしいところですから。私のところでもですねえ，小さな川があってホタルがいます。そこだけでなく，昔はホント，どこにもおったわけなんです。これも農業そのものの行われる中で農薬を使う，あるいは肥料を使う，ということで，ホタルが年々とおらんよーになりました。

しかし一カ所程，わずか14，5戸の集落ですが，ホタルをしっかりと育てとった地域があったんです。そこへ向いて「酒を飲みー来い。」と言うて誘われ，飲みに行っ何のご馳走を受けたかと言うと，ホタルが川から湧いて出る程おる。それにゃー，わし，感動しましたね。50歳になって，ホタルに，そりゃー感動したんですよ。



オヤジに手を繋いでもらってホタル見に行った記憶はないですが，子どものときに，ホタルを，ネギいうかなあ，あのう，帽子のついた，ありゃ帽子がついたらネギはいけんのでしょ？そこへ向いて，ホタルを入れてねえ。なかにはホタルかごを麦でね，編んでそれを持って行きよりましたがな。我々はそりゃーホタルを捕って，何に入れりゃーええかいうたら，年寄りがネギの中へ入れー言うてねえ（笑）。ネギの中に入れて持って帰ったことを憶えておりますがな。ちょうど6月で梅雨時分に入りますなあ，そこで家ん中にホタルが入りゃーね，今度は「大水が出る。」言うてねえ，そういったことを年寄りが言いよりましたが。

それで感動して，「今度はおばあちゃん，おじいちゃん，来年ホタル祭り，やろーや。」ということで，そのじいちゃん，ばあちゃんと約束したんです。しかし集落の皆さん方をお願いしたら「誰が来るんなら，誰がするんなら，雨でも降ったらどうするんなら。」です。まあ全てのことが，地域の皆さん方が心配になるわけなんです，「まあわしらに任せてくれー。」と言いました。ここはホント自分らが元気を出してやりました。

結果はなんとその集落へ3千人，4千人という人間が来たわけなんです。人間が横に並んで歩かにゃーいけんというぐらいの事態が発生したんですよ。そうしたら，「ホタル祭りを続けるなら道路改良をせにゃーならん。」という話がそこから起きたんですよ。で，集落の皆さん方が「1m50cmほど土地を出しちやる。」と，「ほれなら道路改良しよーや。」と言う。その集落の間だけです。

それで，私らはみな喜んで紙を持って行きました。「地域の皆さん，どういう道をつくりゃーええか書いてくれえ。」ということで90cm×90cmの紙，持って行きた

した。そうすると地域に絵の上手な人がおっちゃったんですよ。「ああだ、こうだ」と言って道を書いた。それを基に専門家に書いてもらったんです。そしたら、「1 m 5 0 cmの土地しか出さん。」と言っていたところが、地積調査の図面の中には「1 2 m土地が潰れる」というのができたわけ。「これは怒られるなあー」というのは《承知の助》で、地域の皆さん方に集まって頂いて見せたわけなんですよ。当然怒られましたで。「なんでわしの土地に勝手に道を作るんか。」と。道を作ったんじゃない、書いとるんですよ。図面の上に道は作れんのじゃから。もう大叱られじゃったから。

しかし僅か1 4, 5戸の集落の中にまとめ役がおったんです。長老、一番年の多い人です。その人は何も言わんで後ろにおって、どっと座っとる。そんな前で、みんなでヤンヤン言うて、とにかくやるんですよ。「こりゃ、ウチの土地は全部なくなる。」「こが一なことは、できやーせん。」とね。それを長老が聞いて「おまえら節操があるんか、自分たちが道路をつくろうというて提案しといて、わしやー1 m 5 0 cmしか出さん言うたんじゃ。田んぼが1 2 m潰れる？何を言よんか！土地なんか持つちゃ、死なりやーせん！」と言って怒ったんです。

それで次の段階へ向いて、皆さん方が議論して進んでったんですよ。「こんな図面は測量しとらんじゃけー、実際測量するとしたら銭がかかるから、どのくらい潰れるかいうことを用地に、田んぼに杭を打って貰おう。」ということで、杭を打って貰ったら、案の定、書いた図面と同じように潰れているわけ。しかし、実際に杭を打ったのを見て「なるほど」ということで、理解をした人間が5・6人おったんです。そして5・6人の人間が今度は何を言ったかという「ここまでやって貰ろうて、土地が潰れるけーと言うて辞めたら、集落の者は笑い者になるで。」という話になった。それで、地積調査の図面の上に、皆さん方に判を押してもらったんですよ。「協力する。」ということで、**道路計画がないところに、我々が用地の調整をして道路計画を立てて、そして県に予算をつけて貰うて、道路の計画に入っていたんですよ。**

そうすると今度は、その集落のまた下流の集落が、「なんと、上の方の集落は上手いことやったよのう。」ということになったんです。

人間、あがなもんですがなあ。失敗すりゃ「そりゃみい」ですが、上手やりゃ「なんと上手にやったのう。」ということで「今度はウチらも、そーよーな事をしよーで。」ということで、我々が用地の調整をしていったんです。「道路をつけてくれえ、アレしてくえ。」という時には聞く耳を持たんかった人間が、自分たちが計画を出していく中で、皆さん方が「なるほどのう。」と言う。「アレが判押したんなら、ワシも押しにやーいけんで。」「そうじゃのう。」と、言う。そこでも一番最後まで反対したおじちゃんが何を言うたかという、「毎朝起きて腹が立ってかなわんかった。大きな機械が入って来て自分の田んぼを壊していく状況を見て、もう死にたいくらいの気分じ

やった。」と言いましたよ。

でもね、そのおじいさんが道路が完成したときに何を言うたかという「辻駒さん、長生きはするもんですの～。土地も使いようによって、これほど人間の心を開くかいの～」と。これを誰が言わしたと思いますか？息子じゃありません。息子は自分の子供に何を言いましたかという「田舎に帰って来い言うが、田舎に帰って生活できやせん。親父が死んだら、どなんなろうな」と話をしよったわけ。そのことを孫は聞いとる。道路が良くなったのを見て「おじいちゃん、お父ちゃんは帰らん言よるが僕が帰ったげる。」と言うたんですよ。孫が「帰っちゃる」という言葉におじいさんは参ってしもた。

そういう状況を見させていただく中で、「なるほどの～、自分たちが自分たちの地域を守らないけん。それには自分たちで考えながら議論しながら、自分たちが決定していかんと地域は変わらん」と思いました。

あくまで道路改良を含めて、物ができるの目的じゃないですよ。生活の手段です。目的は「そこに私たちがどう生活するかということ」が目的ならいいけんと思う。

若者定住対策で住宅を今20戸建つとります。今年度新たに3個、安芸高田市になって建設してくれました。これ市営住宅は皆さん、払い下げの住宅ですよ。町営住宅・市営住宅というのは（普通）払い下げはありません。だが私の地域には、払い下げがあるんですよ。これは行政と話をしました。我々役員会で、さて「小学校の存続どうするか、将来の担い手をどうするか、アンケートしようや、実際に出とる者に行って会って話をしようや。」ということでアンケートをしました。アンケートの結果も、実際直接会って話をするのも、答えは1つです。「定年になったら帰るかもわからんで。」というのが我々一番期待できる答えですよ（笑）。帰っても働くところがない、帰って生活するということになれば家をやりかえないけん。



川根のお好み住宅

なら「住宅建てようや。」ということです。若者定住対策ということで「お好み住宅」というのを提案したんですよ。といっても役場がそがなこと受けてくれたかいうたら、そうじゃない。私たちが振興会の役員、地元の議員さん一緒に役割について話をした。町長含めて担当課長らが一緒に話をしたわけなんです。私が説明終わる前に「言葉止めるようですが会長さん、そういう制度がありません。そういう例がございません。」っていうことで聞いてくれんのですわ。

そのときに横におった町長が「制度がない、例がないで終わったらなんにもないよ。地域の皆さん方がここまで議論をしてきて、そして提案を今受けよる。それについて我々は、

どうすればそれに応えられるかということ勉強せなけん。議論せにゃいけん。それが協働のまちづくりじゃ。」ということ、児玉更太郎という旧高宮町の町長が言ったんですよ。

そこで私は本当「協働」という言葉を町長に教えていただきました。あるいは「共有」、住民と行政が共有する関係にならないかと。そして「他所の町は住民参加のまちづくりということを行い、川根町振興会は行政参画の地域づくりを進めとるんよ。」と、そういうことを町長が職員に話をするわけよ。

私は本当に恵まれた環境で育ったように思います。というのは児玉さんという、今はもう安芸高田市の市長を一期やって引退されたわけなんです、その人に本当お世話になり、教えていただきましたね。「攻めの運動」これも児玉さんの教えです。

タウンセンター構想と言いまして「旧川根村のときに役場があった位置、ここの中心を何とかせにゃいけん。旧高宮町の中心をもっぺん、とにかく元気付けよう。」ということで、タウンセンター構想というのを企画されて「なるほどの～、高宮中心だけをやるんじゃなしに、わしのところもやろう。」ということで、その言葉を横取りするようなかたちで、川根振興会に持ち込んで、川根地域のタウンセンター構想やろうということで、農協の施設、ガソリンスタンド、それで今度は農協の店舗、農協を廃止して、お店を自分たちが請け負う。古い施設をそりやもう往生しよったんですが、「これこれだけはやろう。」ということで、タウンセンター構想計画を立てて、そして道路改良企画をし、道路改良を企画する中で、古い分のガソリンスタンドと農協の店舗を立ち退きかけて、そして新しい施設をとにかくそこに作り、農産物の加工処理センターをここにもってき、郵便局を新しくここにもってき、ということをやったんですよ。

それでね皆さん、今日は役場の職員がおってで、こういうことを言うと怒られるけど（笑）「呼ばな良かった。」と思われるけんね。

わしらがぼお〜としとやな、役場の職員もぼお〜としてまっせ。ここの職員さんはどないなんか知らんけど。いやほんまに。わしやつくづくそりやもうね、実感をさせてもらっとるんですよ。職員がすべてそりやもうね、物事やってくれると思ったら皆さん大間違いですよ。天性的なものをもって生まれとるか、そうじゃないんやから。確かに計算することも、企画することも長けた者がいますよ。**だが自分たちが住むところは、せめて自分たちが議論をして決定せんと、前に進みゃせんということですよ皆さん。**

人間の幸せのところまで役場がやってくれるんだったら、みなさん、棺おけに片足突っ込むまで黙っとればいいんですよ（笑）ほいで両足突っ込んでもろて、介護保険

もこれで払わんでええわゆうことになって、ぱあ〜って焼いてもらえばええんですわ(笑)

要求、「あれをせえ、これをせえ。」と言う。そういうときは皆さん、役場の職員が「いらっしやい、いらっしやい」言うてくれますか。**要求から提案型というのは「自分たちのことは自分たちです。」**という原則がなけりゃ駄目ですよ。「なるほどの、地域の皆さん方がここまでやるんか、なら役場もなんとか考えないけんな。」思っって皆さん、職員がピリッとするんですよ。

どっちかいや役場の職員は、皆さん方が文句を言うて「あれをしてくれ、これをしてくれ。」言うよりや一番楽なんです。「これは銭がありません、事業がありません、予算がありません。」ということ言うとりゃいい。「道路を直してくれ。」言うたけんゆうても、そりゃもう「ならやってくれんのなら、わしらがやろうで。」ということで、自分らでやってっみなさいよ。「おいおい、あっこの地域はあ〜ゆ〜ことをしだしたで。こりゃわしらも何かせないけんて。」ということになりますよ。

道路の草刈もそうですよ。見せつけでやるんじゃないが、**せめて自分らがやることはやりながら、だが「ここからここまでは役場がやってくれにゃあどうもならんで。」**という、**そういう議論をしていかないけんわけなんですよ。**

そういうことをすると今度は何がそこにきて足を引っ張るか言いやあ「辻駒さん、草刈りよって石がぼ〜ん飛んで車のガラスがめげたら誰が責任取るんか。」と言う者が出てきます。あつてから物を言えゆうんよね(笑)。確かにあっちゃいけんということじゃが、始めから「事故にあつたらどうするんですよ。」とばかり言うんよね。

今日おいでの皆さんは福祉ということに対してどういう思いをもってますか？他所のまちの福祉というものは色々情報が入ってきますから。年をとればとるほどそれはもうね、自分のほんと老後のことも考えていかないけまへんがな。わしら確かにそういうことも、行政は行政なりに考えてくれないけんが、我々も考えることが「わしはまだここにおいてもらえるな。わしはまだここで生活できるな。」という、安心と安全で、地域の皆さん方が支えておられる。自分も一生懸命に地域と関わることに、ここの生活というものを考えていかないけんのじゃないか。

わしのところも、皆さん方の意見を聞けば聞くほど「他所のまちはあ〜だ、このまちはこ〜だ。」という話があります。こないだも保健師さんというのが、こげなことも言うわけなんです。

私もね、親父が一人になってから、日に日にそりゃもう生活が、広い視野をもたんゆうのかな。元気もなくなってきました。

わしが50代だったかな、50の前半ではなかったかな。

「人間(人)は歳月を重ねるから老いるんじゃない、要は年をとるから老いるんじゃない。夢や希望を失うから老いる。」という。これは外国の方が言われとる言葉ですよ。そういう話を、文章をね、言われたときに受けられなかったですよ。「何を言うんなら、年をとりゃ誰だって老いていくんよ。年をとってから何が夢や希望を持って言われて持たれようか。」と。自分の中で親の生き方そのものを見よりましたから。

これなんか、自分の親なり、地域のじいちゃん、ばあちゃんの生活を見る中で「なるほどのお。」と思いました。今まさにそれが私の気持ちです。

「人間は歳月を重ねるから老いるんじゃない、夢や希望を失うから。」

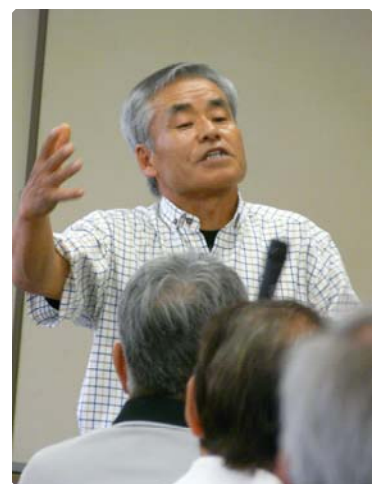
地域の皆さん方、あてにしとった子供が帰ってこん。隣には帰って来る、子供が帰って来た。恨みやつらみはいいことに、私の田舎では隣に蔵が立ちゃ腹が立つ。上見て暮らすな、下見て暮らせ。これが皆さん、まさにこれが私の地域の生き方ですよ。そこを断ち切らにゃいけないのです。

ということで毎年3月の20日、いや春分の日だったかな。竹を上と下だけ節を残して500円硬貨が入るくらいに、欲を言えば一万円札が折り込んで入るくらいに、穴開けて各家庭に配るんですよ、260個。

「一日一円募金」というものをしています。「川根に生まれて川根に住んどる者は一日一円募金する。」16年前にそういう話を提案させていただいたわけですが、役員会では元気な声が出るんですよ。また一つ否定的な意見では「一円じゃなく十円、百円でやれや。」というような声もでます。でもお金を集めるのが目的だったら、指示書を書いて地域の皆さんに協力していただけたら早いんですわ。わたらの目的というのは違います。机上の議論というものは皆さん誰でもするんです。「ええ、悪い。」の議論するんです。**実際に行動を起こすということが、福祉に向けて、向かって行く一つの歩にならにゃいけない。それが目的です。**

一日一円募金しました。「面倒くさい。」と、二年目にはある建設会社の社長が何言うた思う？「辻駒さん、昨年なんぼ貯まったんや？今日何人ボランティアに出られとる？」「今日50人くらい出とる。」「去年なんぼ貯まったんや？」「20万少々。」「今日出とる者が4千円出しゃ、こない難儀なことをせんでもええし、怪我もせんでもええし、済むことやけ。銭がいるんだったらそうしないや。」と。

建設会社の社長ゆうたら効率考えますからな。「働かないけん者が足を切る、手を折ったら誰が責任とっちゃうんなら。」こういうことを言う。「うちらだったら労災なるが、ここでやったら労災ならんよ。」とね。なるほどです、間違いじゃないんです。誰だってそりゃ怪我はしょうがない。こういうことでやったわけですよ。



熱弁される辻駒先生

それでもその社長さんも一緒に、ブルーシートを敷いて、そこで昨年配った竹筒を割りよるんですよ。パァ〜ンと鉦持って。割った後は一円の山ですよ、バケツ1つずつ秤にかけて「20キロあるのお。」と言いながら10個になりました。大体1円いうたら1グラムやから合計20万円。郵便局持って行きましたよ。

そこで社長さんに、一円の山を見さして言うたんよ。「一人ひとりの行動を見ないけんで。あんたらの言う1万円札を20枚数えることは、そりゃもう簡単なことか知らんが、**一日一円募金をしたことが、皆さん方が福祉ということに対して参画しとる、さてこれからどうするかという意識付けになっておるんや。**」とね。議論もここから始まらにゃいけんのです。

今ではその基金を使って、9月の15、6日に小学校の体育館で敬老会をします。75歳以上を呼ぶんですが、75歳以上だけ呼んでも200何人おるんじゃけん(笑)。それでもうちの地域の老人は元気が良いよ。そのときに地域の女性が手作りで全員の弁当作るんでっせ。前日から準備をして、当日も朝からやってもらって。毎週木曜日に独り暮らしの所へ行って、給食サービス持って行っています。

その活動から今はデイサービスをやりよるんですよ、川根地域で。それまでは川根から車で20分以上かかるところ生協のデイサービスがあって、そこに行きよったわけ。でも、あるおばあちゃんが「そこに行きたいんじゃが車に酔う。送迎バスで連れて行っていただくのはありがたいことなんです、車に酔うんじゃ。」と言うんです。どうしましょうか。「バスが酔うなら乗用車じゃならどうなら。」と言うと「乗用車じゃなく軽トラなら酔わない(笑)」と言う。「ほなら軽トラに乗せてくか。」と、皆で言いよったんです。

そういう中で「なら川根でやりゃええんじゃないか。」と話をしたんです。皆さんが「川根でやるゆうて、どこでやるんですの、誰がするんですの?」と言います。それは「わしらがやりゃええ。」ですわ。そこを最初から「できない、駄目だ。」ということで議論すらしめないのではなく、できるかできんかの議論をしながら、「ならどういふことをすりゃできるか。」ということをしりゃええんです。

今は私もそこへボランティアで入っていきよるんですが、つくづく感じるがあります。それは何かいうたら、「年寄りと手を握らないけん。」ということですよ、ほんと。「もったいない。」という言葉が返ってきますで、「お蔭様だ。」という言葉が返ってきますで、「お互い様」という言葉が返ってきますで。「お蔭様・お互い様・もったいない。」そういう言葉というのは感謝の言葉です。互いにそういうことをしてもらったり、したり、田舎にはずっとそのような慣習があったんですよ。水打ちだ、溝掃除だとね。

昔の家というのは縁側があって、地域みんながそこに座って、お茶を飲みながら

一時間でも二時間でも話をして帰り，そこが地域の皆さん方のコミュニティだったんです。いつの間にか網戸がとられて，雨戸，サッシになってしまったんですよ。

生活パターンが変わってくる中で，ちょっと腰を掛けて休むことができんようになった。ちょっと集うてから，みんなでわいわいすることができんようになった。そうゆうようなことを，わしはこれからせないけんと思うとる。

うちでは，油屋・万屋・農協がやりよった施設を今自分達でやっとります。一戸あたり千円を出資していただいて，今その施設をがんばるとるわけです。そりゃ自分みたいに運転できるものは出かけて行って，安いものを買いたって生活することができわけ。だが，交通手段をもたないじいちゃん，ばあちゃんはできませんわ。近くの店が買い物を届けてくれる，生活用品を届けてもらったり，あるいはそこへ歩いて，自転車で行って買って生活できる，こういう場所がなくなると決まったときに，「これじゃならん」ということで，地域の皆さん方に一戸当たり千円出資してもらって，今やりよるわけ。



住民が運営する店舗



始めからスムーズな形でスタートしたかいうたら，そうじゃおまへん。「よう考えよ，わずか千円じゃが，農協が撤退するという事は儲からん。儲からんのをなんぼ我々ができるいうて，千円出資して，これを自社運営できやへん。始めはわずか千円出せゆうて，赤字になったらその補填，増資増資で赤字補填させるつもりやろ」と，頭の回転が鋭い方向に向いていく者は，そういう議論になるんですよ。だが，「互いに支え合っさいこうや」と，そういうことを言いながらね，みんなが「なるほどの」と思えるような議論をしました。

今は，男の職員を二人置いて，燃料屋と，そこの運営をしとります。これもみんなが出資者やから，みんなが利用してくれれば赤字にはならへんのです。「あ〜わしゃ関係ない」と，こういうことでやると始めからもう赤字ですわ。赤字になれば必ずそれはもう継続せん。店を閉店せにやいけん。閉店するとこれから寒くなってね，暖をとるには灯油を炊かにやいけん。遠くの店に「18リッターのポリ容器に入れて一杯くらい持ってきてくれ」頼んでも，片道20分かかるところから持ってきてくれるわけないんです皆さん。だから自分たちでしよる。

それともう一つ、「**年金プラス30万**」ということをお願いするんです。年金プラス30万。今日ここにおいでの方、年金もらってる方おられるでしょ。年金は寝とっても通帳に振り込まれます。30万というのは寝とっちゃもうからんですよ。もちろん60過ぎた者、70、80の者が働くということは大変なことなんです。だが「**寝たきりをつくらん、独りにさせん。とにかく家から外に出して生活させにゃいけん**」ということで、川根地域に喫茶店を今6箇所作ろうと提案しとるんです。600人しかおらんとこでっせ。工場やらあれば、面白いことすれば飲みに来てくれるだろうけど、うちは狐やら狸や飲んでくれりゃ、えろうことないんですが（笑）田んぼ荒らしたり畑掘ったりするのはイノシシですわ。

私の提案、喫茶店を6箇所作るのは、皆さん方が想像してる喫茶店じゃありまへん。畑のほitori、田んぼのほitoriにビニールパイプでハウス6箇所作って、ビール箱を伏せて、その上拭いて、何かの板でも置いて、ご飯でも置いて、そこで喫茶店を作ろうということです。「ま〜おじいさん出てきないや、コーヒー一杯飲もうで」ゆうて、地域のみんなが寄って、「昨日飲んだコップかいの」と言ったりできる喫茶店です。



皆さん、家の中で飲むコーヒーもコーヒーの味がするが、地域のみんなが寄って飲むコーヒーとゆうのは、また一味も二味も夢が語れるでしょ。「こんな毎日遊んでばっかじゃいけんで、何かするか」ゆうてね。広島町の真ん中で、そういう議論しようと思っても、コンクリの舗装をへいで野菜を作るわけにはいかんで。私のところにゃ田んぼがある、畑があります。70、80、90歳の者で野菜作りをしたことない者は一人もおりゃへん。ちょっと自分達が食べるもの以上のものを作れば、それが銭になるでしょ。みんなでワイワイ話をしながら、そしてそこで銭儲けをすれば、いつの間にか「病院に行くことを忘れとったの」となりますよ。

病院に行きや簡単に薬くれますよ。悪うのうても薬を出さにゃいけんのですよ。「どこの病院行って、これを飲みよりますよ」って他所の病院持って行ってみなさい。「はあこれを飲みよる、これよりこっちの方がいい」って必ず言われますから（笑）。「あんたええの飲みよるの」とは誰も言いやしませんで。ハシゴをすりゃ3つも4つも薬をくれますよ。

皆さん、「ぴんぴんころりん」といきやあせん。「何もしてくれんのお」と言う暇があったら、自分達で何か考えてみんさい。そうすれば、「なるほどの」と感じることもありますわ。「役場でやってくれん言うてたことが、わしらでできるじゃないの」ということになるわけなんですよ。

それが、要求から提案です。

地域が守りに入っちゃいけんのです。地域が攻めていかんといけません。そして自分達ができることは自分でやり、できんかったら行政と一緒にまちづくりしてい

きゃあよろしい。

私の地域だからこのようなことがほんと出来たわけなんですけど、皆さんの地域はこういうことにはならんかもわかりません。だが、「おしゃあまだここにおいてもらえな。」ということは、どこに住んでおっても感じることで。 「おい！おい！おい！」と言うてたんじゃ、ええことにはなりまへんで（笑）。

この間、女性に聞いたんですよ。「50～60歳くらいで1人になったら、このくらい元気で生活できることはない」と言っていました。「長患いしたらどうもならんけど、コロっと死んだら保険は入る（笑）。」とね。男性の皆さん、「おいおいおい」言うてたらええことにならんきにね。腹が立って「何するんね！」と言って叩かれるんはどっちか言えば、「おいおいおい」言うてた者が叩かれるんですよ（笑）。

今から「おいおいおい」は止めて、「ほんなら何とかせんといけんのお」と言うて外に出て働けば、「お父さん、よう頑張っちゃった。今日もビールが美味しいでしょう」と言うてビールが美味しくなるんですよ（笑）。

ということで一つみなさん頑張りましょう。

役場へ頼るんじゃないんです。我々がポーとしてたら役場の人もポーとしとりますよ（笑）。自分らがしゃんとしてきたら、役場の職員も「なるほどのお」と言って協働のまちづくりを考えますから。自分達がポーとしてたら、なんぼ「協働・協働」言っても協働のまちづくりにはなりゃあせん。

ということで終わらせていただいてもよろしいでしょうか（笑）。ありがとうございました。

● 司会

辻駒先生 どうもありがとうございました。

長年取り組まれている事が、かなりたくさんありまして、お配りしている資料には色々載っているんですが、これを短い時間で全てお話いただくのは無理だと思うので、それぞれの取り組みの中で何を大事にしてきたかということ、基にお話をされたのかなと思っております。

最初にちょっとお話をしておけばよかったのですが、今日の予定としましては、今3時30過ぎなんですけど、この後30分少々ですね、辻駒先生に質問にお答えいただくというお時間をとっております。

それでは、お話をお聞きして何か辻駒先生のほうにお聞きしたい事がございましたら、挙手していただけたらと思いますが、いかがでしょうか？

(挙手なし)

それでは、コミュニティ協議会の方で事前に「質問があったら提出してください。」ということで、出されている質問について、順次お答えいただきたいと思います。

1つめですが、「玉野市は今年度、協働のまちづくり条例を策定すべく、14名の委員による策定委員会を立ち上げて、討議を展開しています。また、3月議会では質問に立った15名の議員のうち、13名が協働に関する質問をしました。協働が玉野市の旬なキーワードです。協働について辻駒さんの思っていることをお話ください。」というご質問です。

● 辻駒先生

お話をさせていただいていますが、私は大学の先生でもないし、評論家でもありません。協働という話は、さきほどの話の中でさせていただいたように、児玉甲太郎という町長にその言葉を教えてもらいました。まちづくりを進める中で、一番始めに町長に向かって誰が文句を言ったかという、一番最初に議員が文句を言ったんです。

その時に児玉さんが何を言ったかと言うと「行政の力というんは限られたもんじゃ。これからの地域づくりは、昔みたいにそんな意見はぼんぼん出てくりゃあせん。あれをせえ、これをせえの時代じゃあない。自分達は何をせにゃいけんか考える、こういう地域づくりをせにゃあいけんのじゃ。議員さんは振興会の育成に携わっていただきたい。」こういうことを話されたようです。

私たちの地域の議員さんが、それまでどんな仕事をしとったかと言えば、おるだけですわ。地域で議論をして決定をして何かをするかという、そうではなく、地域の利害を考えながら「こうこうしなさい。こうこうしなさい」と言う事だけでやってきた。これもまた事実。

振興会の顧問に地元の議員さんに入っただき、役員会にも出席いただき、議会報告をしていただき、自分達が何を議論するかということを知っていただき、しっかり活動をしていただきたいと話をさせていただきました。「ボランティアができんと議員じゃない。」と厳しく話をさせていただきました。

地域のみなさん方には地域をしっかり見ていただき、「こういう事を振興会に提案しようと思うんだが」ということを、地域で議論したことを振興会にあげていただく。次に振興会の中で、地域であがったきた事を「地域でやりなさい。あるいはそうじゃなく、行政をつながんといけん。これは、将来的に検討してもらおう」ということ判断させていただき、地元の議員さんと一緒につないでいく。

ちなみに地元の人が直接議員に提案されても、「これは振興会で議論されたんです

か？地域で議論されたんですか？」と聞かれます。議論されていないものは、また地域に返して、振興会で。こういう流れなんですね。

したがって、さっきも言った様に用地の交渉も自分たちでし、自分たちは地域経営といひまして、**農業問題・福祉問題・教育問題・文化問題**そういうことすべて**川根振興会が関わりを持っています**。そういうことを含めて全体を地域経営というのですがね。今以上に自分たちのライフスタイルを下げるんじゃなく、今以上に自分たちの生活舞台をどうやったら高められるかということ話をさせていただいている。したがって、自分たちで出来ない事は、行政に提案をして協働。こういうこと。あるいは、住民自治のまちづくりになっているんじゃないかと思ひます。自分たちの地域は自分たちで守っていく。そして自分たちでできん事は行政と一緒に力を合わせながら、まちづくりをやっていかんといけん。

協働とは、わしの考えで言えば、まさに住民自治。自分たちの地域は自分達で守る。自分達のごとは自分達で決定する。こういうことだとわしは思ひます。

● 司会

ありがとうございます。

それでは、続きましてもう一つ。「玉野市の町内会加入率は約75%。自主防災組織加入率は約35%です。協働がキーワードとなっている昨今。行政への住民参加が時代の流れだと思ひます。ボランティア活動に、関心の薄い方々を協働に誘い込むヒントは何ですか？」という質問です。

● 辻駒先生

「嫌々で入ってくれるもんは、入ってくれんでもええ」というくらいの思ひでやっています。だが、「入るな。」とは言ひません。年代からいひますと、子育ての段階におられる方がボランティア活動に参加するという事は難しいです。ですから、出来る人がやればええ。**「次の世代が、やがてボランティアを受けてくれるような、まちづくりをしようや」という事を言ひしております。**

これも、「子どもというもんは、親の後ろ姿を見て育つ」という言葉があるでしょ。わしはまさにそうじゃないかと思ひます。親がボーっとしとる所は、子どもボーっとしとりますよ（笑）。親が汗をかきながら、家庭の中で議論してると、子どももしっかりついていくようになります。そういうもんじゃないかと思ひます。

私は肩書きで物しません。今日も名刺もいただきましたが、川根振興協議会の名刺は、いつ作ったかという、一番始めになった時に郵便局の局長に「名刺持ちなさい」と言われて持ちました。

名刺を持った途端、「私はこういうもんです」という事で、行政・役場の職員に名刺を渡しよった。今まで名刺を持ってなかった時は頭を下げんかった人間が、名刺を持ったら頭を下げる。「そうじゃないだろ」ということで、それから名刺を一切持たんようになったわけなんす。

だからさっきも言うたように、「あ～せ～、こうせ～」と言うのではなく、自ら活動することによって、地域のみなさんが参加する体制を作る。**リーダーは育てるもんじやない。育ていくもんです。**地域の5人10人が汗を流しよったら、必ず人間は集まってくるんです。同時にもう一つグループが出来ますよ、文句言うグループ。

文句言うグループと、文句を言わず一生懸命するグループが出来ます。そのへんの判断は、**生き方はみんな自分で決めにゃあいかん。**

何もかも行政に文句を言う人間と、文句言うくらいなら「この時間こういうことしようや。」という人間がいて良いんです。隣の陰口、どうのこうの心配しんさる。100%どっちかということになれば気持ちが悪いです。

● 司会

ありがとうございました。

続きましてもう一つ、「行政の縦社会組織の弊害は能率が悪いなど色々言われています。コミュニティが行政と上手につきあう要点、注意点は何か？」という質問です。

● 辻駒先生

皆さん、役場の職員を呼びつけて文句を言うて、役場の職員から良いアイデアが出てきますか。出やしません。「あそこ行ったら何言われるだろうか？言葉尻をとらえて何言われるか…」とと思っていますよ。とても心を開いて話はできやせんです。こっちは「わたらの税金で雇っとる」という考えがあるんですけえ（笑）。

わたしは行政に頼らん言いましたが、役場の職員には頼りますよ。まず何から始めるか言うたら、「1杯飲みに来い」ですわ。互いに心を割って話してると、「なるほどのお」という事になるんです。役場の職員をしかるより、1杯飲ましてください（笑）。いやほんまよ。そこから話をしていかなと、ええことになりやあせん。職員というのは、いろんなことを知ってます。情報はいっぱい持っていますから。「あそこの地域はこういう事してる」とかね。自分らがパッパパッパ話しとることでも、あつという間に全部文書にしてくれますから。地域の広報紙なんかでも、役場の職員がその場でやってくれますよ。デジカメ持って。

そのくらい役場の職員は長けた能力を持ってるんです。それを使って地域のみなさん方が、自慢せんといけんのよ。今まで役場の職員を自慢したことがありますか？いやいやボーっとしとったけん（笑）。わざとボーっとしとんよ（笑）。ほんまはシャンとしとんよ。ほんまですよ、みなさん。始めはわたらもそういうて使いよった。「お前来たかったら、町長に言うて。」とね。「町長に言うて」言うたらピーンと顔がひきつりよったけんね。今はそうじゃない、町長に言やあせん。「1杯飲め」と言うてね。そのかわり「運転したら首になるんで」と言うてやる。そういう事で、役場の縦割り行政の職員というのは地域に入っていくことになる。

一住民として扱ってやるようにすると喜んでやりますよ。**リーダーというのは1人じゃないんやからな。地域のリーダーいうんはみんなの役割分担ですよ。**絵を描くのが上手なん、物を作るのが上手なん、計算するんが早い、何やええアイデア持ってる、そういうみんながすべてリーダーなん。何もかにも会長さんに押しつけてたら、会長さん何も出来やせんのです。私でもそうですよ。地域に行って、振興会の会長は、総会では会長・副会長・監事だけ選んでもらうんですよ。各部の部長・組長いうんは私が委嘱状を出すんです。委嘱状を出して2年なら2年してもらおう。後の後継者いうんは「後継者をとにかく育てていく状況になるか、ならないかという事は、あなたの活動次第よ。」と言うて、それくらい割り切ってもらおう。役員になつとる者が「やれやれ。」とか「大変だ。」とか愚痴言うて、組織そのものが回りますか？

その愚痴の問題が何やいうて組織の問題なら組織の中で議論すればいいんです。地域の問題は地域で議論すればいいんです。議論がないからいつまでも愚痴になる。役員を2年させられて、「これで終わりだ、自分が役になった時に協力してくれなかった物には、今度は絶対協力してやらん。」、こういうパターンでしょ。これじゃあええことにはなりません。**自分が自分で解決しながら次にバトン渡すくらいじゃなきゃ、役になれやせんです。**

● 司会

ありがとうございました。

● 濱口会長

一ついいですか？これは質問じゃないんですが、有意義なお話を伺った中で、行政の方が「例がない、システムがないから出来ん言うじゃいけん」と言っておられましたですね。平成13年に辻駒さんから聞いた話で、お好み住宅という話をされました。川根振興協議会は行政・町に働きかけて川根地区に毎年6戸のお好み住宅の新築を行い、他県からの移住を誘い、地区に住む定住人口の増加を図っている。

お好み住宅というのは、地区が土地を提供し、町が家を建てる。家を建てる時に、入る人に間取りなど全部を決めさせる。家賃3万円で、20年間家賃を払ったら、その後は100万円で、その人に払い下げる。3万×12ヶ月＝36万。36万×10年＝360万。36万×20年＝720万。自分の設計した家が自分の物になる。この前伺った時には小学生の子どもがいる事が条件で、今、道路が整備され広島に通勤が可能だと。広島で働いている方を川根に来てくれ。小学校の子どもを増やす。子どもが育ったら、家も自分の物になる。前例がない。予算がない。法律がない。色々あったが、川根に21軒立っている。

行政の方、参考にしていただいて、前例がないのを何とかするのが行政であり、議



質問をする濱口会長と辻駒氏

員さんだと思うので、よろしくお願いします。

● 辻駒先生

間違いはないですね。今、20戸建っております。今年度3戸新築する予定です。どうしても30～40分、遠いところだと1時間くらいかけて広島へ通っておられる方もおります。

夫婦が地域で一生懸命働いても、夫婦で年収300万ちょっとくらいしかない。都会ですと公共交通機関を使って車を持たなくても生活出来ますが、田舎に住むと、どうしても夫婦が車を持ってないと生活出来ない。

人間関係が出来てる夫婦は上手に世間を渡ってる。田舎へ住んだら要は自給自足と言うんですわ。野菜作りの本を買ってますよ。「辻駒さん、本を見て書いてない事が1つだけありました、草が生えるいう事を書いてなかった。」と(笑)。「草が生えたらどうするんか?」と言ってね。近くのおじいちゃんが、「そりゃあラウンドアップを薄めて撒きゃあ枯れる。」てね。そしたら、野菜が生えとるところに撒いて、野菜全部枯れてしもうた。「おじいさん枯れたで。」言うたら、「バカやのう。」と言うてね。「おじいちゃんとは、よう出来とるなあ。」言うたら「持っていね。」言うて野菜をくれる。また、何かかんか言うたら野菜くれるんですわ(笑)。田圃行って「おじいちゃん今年豊作やの」言うたら、「おう、やるやる。」言うて野菜を必ずくれる。そういうて、ドロが付いてるのを「洗うんが面倒やけん。」言うて、外に投げとったら、「もうそこへ持っていく事はない。」言うてね。

ということで今20戸建ってるんですが、なかなか来ていただいてもらって、見てもらうような事にはなっていないんです。建ってる住宅の敷地の草取りが出来ないんです。それくらい忙しいんです。ですから「ここは辻駒さん、家は人が住んでるんですか?」と視察に来た人に言われますよ。諦めの状況ですわ(笑)。そのくらい忙しくしとります。それでも、子どもは元気ですね。親は死にものぐるい(笑)。子どもは元気ですがな。住宅も20年住んだら払い下げる。夫婦と子どもの3人が生活できる住宅ですよ。自己資金が200万から300万あれば1人は食べられるんですよ。住宅自体のグレードを上げることもできるんです。

これも最初担当課がどう言うたかという、例がない。」そしたら、町長が「例がない、制度がない言うたら、それから先、住民との協働する関係は出来やせん。いかに住民の提案について、どうすれば応えられるかという事をしっかりわれわれが議論せんといけん。」と言ってくれたんです。そういう関係というのは、**「組織を作って自分たちの地域は自分たちで守っていくんだ。自分たちの地域の課題は自分たちで決定してからいくんだ。」**というくらいの組織作りをしていかんと、なかなか行政は応えてくれません。

ほな明日行ったからいうても、そりゃダメですよ。それだけ、自分たちの組織は自分で守る。協働の理念をもう少し実践していくような内容作りをしていったら、間違

いなくそういう方向にいきます。

● 司会

ありがとうございます。

事前に出していただいていた質問は以上ですが、その他にご質問はありますか？よろしいでしょうか？長時間にわたりまして、ありがとうございました。今日の話をコミュニティ活動に活かしていただけたらと思います。ボーっとしている役場の職員ですが（笑）、ちょっとドキッとするような事もありましたが、役場の人間も頑張っていきたいと思います（笑）。

講師の辻駒先生におかれましては、遠方よりわざわざお越しいただき、ありがとうございました。みなさんで、もう一度拍手をお願いいたします。（拍手）

以上をもちまして、玉野市コミュニティ協議会リーダー研修会を閉会いたします。

アンケートをお配りしておりますので、そのまま机の上に置いて帰っていただけたらと思います。

長時間にわたりありがとうございました。